

昭和 56 年 度

川崎市衛生研究所年報

(第 17 号)

川崎市衛生研究所

(1981)



は じ め に

昭和56年度の当研究所の現況と業務のあらましをとりまとめ、年報、第17号としてお届けいたします。

ご高覧の上、ご叱正、ご教示をいただければ幸いです。

衛生研究所として、今後のあり方は、衛生行政面からの要請は、ますます多様化しつつあり、複雑かつ高度なる技術を必要とする試験検査に対応いたしながら、地方衛生研究所の重要な業務に上げられている、試験検査、調査研究、指導訓練、さらに公衆衛生情報の解析提供の事業推進に向けて、機器の整備を計りつつ、職員一同の結集した努力を傾注し、もって市民の健康と福祉に貢献するよう努力いたす考えています。

今後とも、皆様の一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

昭和57年11月

川崎市衛生研究所長 中 村 武 雄

目 次

1. 概 要	1
(1) 沿 革	1
(2) 機 構	3
a) 組 織	3
b) 事 務 分 掌	3
(3) 人 員 配 置	4
a) 職員職種別定数	4
(4) 予 算	4
a) 歳 入	4
b) 歳 出	5
(5) 行 事	5
a) 学 会	5
b) 講習会及び研修会	6
c) 職 場 研 修	8
d) 会 議	8
(6) 指 導 訓 練	9
(7) 講 師 派 遣	9
2. 試 験 検 査	10
(1) 月別検査件数	10
(2) 依頼別検査件数	14
(3) 項目別検査件数	15
a) 食品別検査項目内訳	21
b) 水質別検査項目内訳	25
・ 微 生 物 課	26
・ 理 化 学 課	36
3. 調 査 研 究	42
(1) 調査研究報告	42
(2) 論 文 発 表	44
(3) 学 会 発 表	45
4. 職 員 名 簿	47
5. 人 事 記 録	48

1. 概 要

(1) 沿 革

年 月	事 項
昭和 27. 1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所設置される。 庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用する。
27. 2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により次の係が設置される。 庶務係 試験係
36. 7	本市に4カ所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望にこたえて、川崎市新川通り70番地川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始する。
36. 10	川崎市事務分掌規則の改正により次の係が設置される。 試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係となる。
37. 9	川崎市中央保健所庁舎改築と同時に同庁舎4階に移転する。
40. 4	川崎市事務分掌規則の改正により次の係が設置される。 試験第1係、試験第2係が廃止され、 微 生 物 係 臨 床 検 査 係 理化学環境検査係
42. 7	川崎市事務分掌規則の改正により次の係が設置される。 理化学環境検査係が廃止され、 食 品 化 学 係 環 境 検 査 係
44. 4	川崎市立川崎病院構内に設置した放射能測定を閉鎖し環境検査係内に移す。
44. 9	川崎市大島町5丁目5番地2(元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地)に庁舎新築起工。
45. 5	新庁舎竣工。
45. 6	川崎市条例第2号が改正され川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日条例第14号)が新たに施行される。(名称変更と設置場所の変更)
45. 6	川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行。2課7係が設置される。

年	月	事	項
		微生物課	- 庶務係 - 細菌検査係 - 臨床検査係 - ウィルス検査係
		理化学課	- 食品検査係 - 水質検査係 - 環境検査係
昭和	45. 6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式挙行	
	46. 4	川崎市衛生研究所条例第6条に基づく手数料一部追加による改正, 施工される。 (昭和46年3月23日条例第6号)	
	46. 8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日訓令第14号) が施行される。	
	46. 10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日規則第71号)により, 1室, (2課6係)が設置される。 同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され, 庁舎共同使用 として発足。	
	47. 4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治第252条の19第1項)	
	48. 12	公害研究所庁舎新設に伴い移転	
	50. 4	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。(昭和50年4月1日条例第6 号)	
	50. 4	川崎市衛生研究所条例施行規則を全面改正施行される。(昭和50年4月1日 規則第21号)	
	50. 7	4階に実験室を増築。	

施設および建物

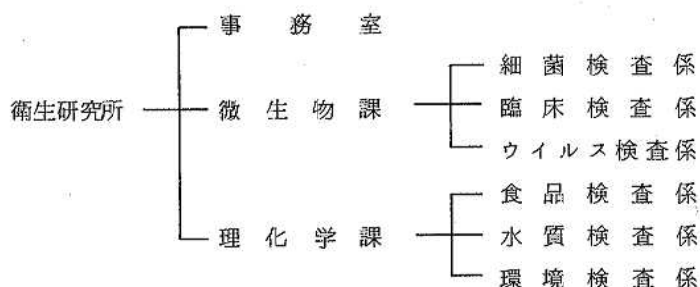
- (1) 敷地 1,652.89㎡(500坪)
- (2) 建物 鉄筋コンクリート造4階建
延面積 2,242.60㎡

階 別 内 訳

階 別	床 面 積	屋 外 階 段	計
1 階	642.50 m ²	4.95 m ²	647.45 m ²
2 階	630.00	23.00	653.00
3 階	630.00	21.85	651.85
4 階	290.30		290.30
計	2,192.80	49.80	2,242.60

(2) 機 構

a) 組 織



b) 事務分掌

川崎市事務分掌規則（昭和51年4月30日規則第39号）

（衛生研究所）

第38条 衛生研究所の事務分掌は、次のとおりとする。

事務室

- (1) 所の庶務に関すること。
- (2) 所の維持管理に関すること。
- (3) 検査業務の企画、調査及び統計に関すること。
- (4) 公衆衛生従業者の技術研修の企画実施に関すること。
- (5) 検査容器の消毒及び洗浄に関すること。

微生物課

- (1) 細菌学的検査に関すること。
- (2) 臨床検査に関すること。
- (3) ウイルス学的検査に関すること。

理化学課

- (1) 食品の化学検査及び細菌学的検査に関すること。
- (2) 水質の検査に関すること。
- (3) 環境衛生の検査に関すること。

(3) 人員配置

a) 職員職種別定数

(昭和57年4月1日現在)

職 種 別 課 係 別		総 数	一 般 事 務 職	薬 劑 師	獣 医 師	臨 床 検 査 技 師	衛 生 検 査 技 師	化 学 職	自 動 車 運 転 手	用 務 員
総 数		39	5	8	5	10	1	7	1	2
所 長		1			1					
事務室	事 務 長	1	1							
	事 務	7	4						1	2
微生物課	課 長	1			1					
	細菌検査係	6			3	2	1			
	臨床検査係	4		1		3				
	ウイルス検査係	4				3		1		
理化学課	課 長	1		1						
	食品検査係	5		2				3		
	水質検査係	5		3				2		
	環境検査係	4		1		2		1		

(4) 予 算 (昭和56年度)

a) 歳 入

款 項 目	節	予 算 額	決 算 額
使用料及手数料		円	円
手 数 料			
衛生手数料	衛生検査手数料	35,353,000	45,591,920

b) 歳 出

款 項 目	節	予 算 額	決 算 額
衛 生 費		円	円
保健衛生施設費			
衛生研究所費		49,176,000	49,067,264
	報 酬	276,000	276,000
	報 償 費	32,000	32,000
	需 用 費	33,387,000	33,370,934
	消 耗 品 費	(13,512,000)	(13,313,300)
	調 査 研 究 費	(1,300,000)	(1,306,586)
	燃 料 費	(2,177,000)	(1,646,760)
	食 糧 費	(15,000)	(11,000)
	印 刷 製 本 費	(410,000)	(417,890)
	光 熱 水 費	(15,303,000)	(15,263,571)
	修 繕 料	(670,000)	(1,411,827)
	役 務 費	1,103,000	1,102,920
	郵 便 料	(360,000)	(385,000)
	電 話 料	(500,000)	(421,620)
	ク リ ー ニ ン グ	(170,000)	(179,400)
	手 数 料	(73,000)	(116,900)
	委 託 料	3,528,000	3,526,560
	使用料及び賃借料	10,054,000	10,053,600
	備 品 購 入 費	574,000	537,950
	負担金補助及び交付金	222,000	167,300

(5) 行 事

a) 学 会

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
56. 4.2~3	細 菌 学 会	福岡市 電気ビル	小川(正), 山下
6	第 91 回 日本獣医学会	全共連ビル	大久保
18~19	神奈川県 臨床検査技師学会	神奈川県歯科大学	倉塚
6, 30	川崎市公衆衛生研究発表会	中原市民館	微生物課職員 理化学課職員

年 月 日	学 会 名	開 催 地	参 加 者
56. 7.17~18	カビ毒研究連絡会	名古屋 野間荘	森
10. 1	衛生動力学会東日本大会	科学技術庁(土浦) 研究交流センター	佐藤
1~2	第18回 全口衛生化学技術協議会	新潟県中小企業会館	小野, 佐野, 山田
6~7	UJNR 第4回有害微生物 国際シンポジウム	ヤクルトホール	岡田, 小川(正)
8~9	第30回 日本感染症学会東日本地方総会	日本都市センター	岡田, 斉藤, 春山
21~22	第29回 日本ウイルス学会	調布市 市民福祉会館	斉藤, 大場
28~29	第40回 日本公衆衛生学会	愛知県産業貿易会館	大場, 原田
11.25	神奈川県公衆衛生学会	県保健教育センター	岡田, 山下, 加佐見, 小川(正)
12.3~4	日本環境変異学会	東 条 会 館	倉塚
22	衛生害虫と農薬に関するシンポ ジウム	日本学術会館	佐藤

b) 講習会及び研修会

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
56. 4.17	臨床検査技師研修会	幸 保 健 所	小林, 倉塚
5.1~30	実務研修 嫌気性菌の分離方法と毒素検出 について	東京都立 衛生研究所	黒岩
12~13	衛生微生物技術協議会 第2回研究会	愛知県 婦人文化会館	中村, 大久保, 小川(正) 岡田, 斉藤, 春山
15	臨床検査技師研修会	社会復帰 医療センター	加佐見, 飯塚
11~16	実務研修 HBC抗限精製について	神奈川県衛生研究所	飯塚
21	家庭用品試験に関する研究会	国立衛生試験所	鈴木
27	ウイルス抑制因子研究会	ヤクルトホール	斉藤
30	試験検査業務精度管理研修会	県予防医学協会	
6. 1~30	実務研修 残留農薬(CNP)の分析	国立衛生試験所	鈴木
1~30	実務研修 酵素免疫測定法	神奈川県衛生研究所	大場
19	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
56. 6.26	第 19 回 放射線安全管理講習会	砂 防 会 館	森
26	県衛生技術講習会	神奈川県衛生研究所	岡田
7. 9	地研関東ブロック ウイルス研究会	国立予防研究所 村山分室	斉藤, 春山
17	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員
21	県用廃水技術研究会	平沼記念レストハウス	湯川
23	家庭用品試験に関する研究会	国立衛生試験所	鈴木
8.17 }	実務研修 総有機塩素化合物 (TOCℓ)	国立衛生試験所	入口
9.16	分析方法の研究		
21	臨床検査技師研修会	川崎保健所	
25.27	カビ毒の変異原性研修会	北里研究所	頭本
9. 2	化学物質の有害性調査に関する 特別研修会	産業安全会館	頭本
18	家庭用品試験に関する研究会	国立衛生試験所	鈴木, 原田
18	臨床検査技師研修会	高津保健所	倉塚, 加佐見
25	県衛生技術講習会	神奈川県衛生研究所	山下, 黒岩
9.16 }	実務研修	東邦大学	小林
10.15	動物の病理組織学		
10.15	県衛生技術講習会	神奈川県衛生研究所	小川 (時)
16	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員
20	県用廃水技術研究会	鶴 見 会 館	湯川
11.21	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員
26	家庭用品試験に関する研究会	国立衛生試験所	鈴木
12.18	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員
57. 1.22	放射線障害予防規定改正に伴う 講習会	アイソトープ協会	森
22	衛生技術講習会	神奈川県衛生研究所	湯川
2.9~10	TORCH症候群検査法講習会	東京大学 医学研究所	春山
19	県用廃水技術研究会	県立鶴見 労働福祉会館	湯川
19	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員
2.20 }	実務研修 柑橘類及び豆類中のエチレンジブ	国立衛生試験所	山本
3.30	ロマイド (EDB) 分析方法		

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
57. 2. 26	衛生技術講習会	神奈川県衛生研究所	黒岩, 加佐見
3. 12	衛生技術講習会	神奈川県衛生研究所	石塚, 倉塚
17	地研全国協議会 環境と人の健康に関する研究会	東京都 衛生研究所	入口, 森
19	臨床検査技師研修会	当 所	微生物課職員
26	県用 廃水技術研究会	横浜市 開港記念会館	湯川

c) 職場研修

年 月 日	名 称	講 師 名	場 所
56. 11. 24	酵素免疫測定法について	国立武蔵療養所神経センター 厚生技官 石井 澄和	当研究所 研修室
57. 2. 6	高速液体クロマトグラフの応用 と問題点	北里大学薬学部 助教授 久保 博昭	〃
57. 2. 9	家庭用品中の有害物質の規制 について	国立衛生試験所療製品部 家庭用品第1室長 中村 晃忠	〃

d) 会 議

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
56. 6. 15 〃 16	昭和 56 年度 地方衛生研修所全国協議会 所長会 臨時総会	法 曹 会 館	長田, 市川
56. 7. 14 〃 15	昭和 56 年度 地方衛生研究所全国協議会 関東甲信静地区支部協議会	群馬県 川 原 温 泉	長田
56. 10. 27 〃 28	昭和 56 年度 地方衛生研究所全国協議会 総 会 次長, 庶務課長会	愛知県産業貿易会館	長田, 中村
56. 11. 20 〃 21	昭和 56 年度 指定都市衛生研究所長会	公立学校共済組合 北九州会館	長田, 市川
56. 12. 9	川崎市 感染症情報対策委員会	中原休日急患診療所	中村
19	川崎感染症情報対策委員会 第2回解析評価小委員会	〃	長田, 中村

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
57. 2. 25	川崎市学校公害対策協議会	産業文化会館	中村
3. 16	川崎市感染情報対策委員会 第3回解析評価小委員会	中原休日急患診療所	中村, 頭本

(6) 指 導 訓 練

年 月 日	実 習 対 象	人 員	内 容
56. 7. 2 22	麻布大学 環境保健学科	4 名	衛生試験検査技術の研修
56. 7. 23 8. 12	〃	3 名	〃
56. 6. 8 57. 1. 30	北里大学衛生学部 産業衛生学科	1 名	(卒論研修) 食肉における 細菌汚染について
56. 10. 12 16	保健所臨床検査技師 新任研修	2 名	細菌検査
56. 10. 19 23	〃	2 名	水質検査
56. 10. 26 11. 6	〃	2 名	臨床検査

(7) 講 師 派 遣

年 月 日	名 称	講 師 名	依 頼 者
56. 7. 4	Campylobacter 腸炎の検査方法について	小 川 正 之	川崎市役所 臨床検査技師会
56. 11. 25	妊娠婦と風疹について	斉 藤 充 司	幸 保 健 所
57. 1. 20 57. 1. 22	健康教育学Ⅱにおける教育 実践事例の考察	小 林 勇	国立公衆衛生院
57. 3. 19	衛生害虫の同定について	佐 藤 英 毅	衛 生 局 長
野外調査研究			
56. 12. 1 57. 3. 31	病害動物としての ブユ防除とその水界生態系への影響に関する研究	佐 藤 英 毅	(財)日本環境衛生センター

2. 試験検査

(1) 月別検査件数

(昭和56年度)

区 分		月 別											計	
		56.4	5	6	7	8	9	10	11	12	57.1	2		3
細菌検査	分離	腸管系病原菌(1)												39,480
	同定	その他の細菌(2)												65
	血清検査	(3)												319
	化学療法剤に対する耐性検査	(4)												2
ウイルス・リケツチア等検査	分離	インフルエンザ(5)												33
	同定	その他のウイルス(6)												
	同定	リケツチアその他(7)												
	血清検査	インフルエンザ(8)												61
病原微生物の動物試験	血清検査	その他のウイルス(9)												1,935
	血清検査	リケツチアその他(10)												113
	病原微生物の動物試験	(11)												
	病原微生物の動物試験	(12)												
原虫・寄生虫等	寄生	虫(13)												3
	を族・節足動物	(14)												192
	真菌・その他	(15)												
	培養	(16)												
結核	化学療法剤に対する耐性検査	(17)												
	結核	(18)												
性病	梅毒	(19)												1,437

性病	り	ん	病(19)	2	1	4	1		1	1		2			1	13
	そ	の	他(20)													
食中毒	病原微生物検査(21)			12	2	11	295	242	73	30	59	5	2	31	5	767
	理化学的検査(22)															
臨	血	液	型(23)	1			1									2
	血液一般検査(24)			15	14	30	118	14	57	10	13	7	15	22	11	326
	生化学検査(25)			13	15	13	21	13	10	10	13	8	8	17	12	153
	先天性代謝異常検査(26)															
床	そ	の	他(27)													
	尿	(28)		4	14	5	5					1	4			33
検	便	(29)													2	2
	病理組織学的検査(30)															
	そ	の	他(31)													
	病原微生物検査(32)			297	232	358	677	323	263	413	218	267	80	261	352	3,741
食品検査	理化学的検査(33)			88	101	95	196	198	102	111	200	354	66	155	1,332	2,998
	そ	の	他(34)													
水質検査	水道原水	細菌学的検査(35)														
		理化学的検査(36)														
		生物学的検査(37)														
	飲用水	細菌学的検査(38)		29	15	29	22	56	79	47	42	52	12	41	39	463
		理化学的検査(39)		29	15	29	22	56	79	47	42	52	12	41	39	463

次ページにつづく

区 分		月 別												計	
		56.4	5	6	7	8	9	10	11	12	57.1	2	3		
水 質 検 査	飲 用 水	細菌学的検査 (40)	6	8	10	12	10	114	98	13	17	5	17	5	315
		理化学的検査 (41)	6	8	10	12	10	114	98	13	17	5	17	5	315
	そ の 他	細菌学的検査 (42)													
		理化学的検査 (43)													
	利 用 水	細菌学的検査 (44)													
		理化学的検査 (45)													
		生物学的検査 (46)													
	下 水	細菌学的検査 (47)													
		理化学的検査 (48)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		生物学的検査 (49)													
廃棄物関係検査	し 尿	細菌学 的 検 査 (50)		16	16	16	5	16		16	4				89
		理 化 学 的 検 査 (51)								1					1
		生 物 学 的 検 査 (52)													
	そ の 他 (53)														
公 害 関 係 検 査	大 気	SD ₂ ・NO・NO ₂ ・OX・OO (54)													
		浮遊粒子状物質(粉じんを含む)(55)													
		降 下 ば い じ ん (56)													
	そ の 他 (57)											4		4	
	河 川	理 化 学 的 検 査 (58)	39	3	40	6	6	2	3	10	2	6	9	4	130
		そ の 他 (59)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
騒 音 ・ 振 動 (60)															

(2) 依頼別検査件数

	依頼によるもの					自 ら 行 な う の もの	合 計
	保 (検 査 室) 所	保の 健行 所政 以機 外関	医 療 施 設	学事 校業 及 び所	そ の 他		
細菌検査(1)	1,262	2,243	2,128	32,246	1,612	375	39,866
ウイルス・リケツチア等検査(2)	1,347	104				691	2,142
病原微生物の動物試験(3)							
原虫・寄生虫等(4)	1	30			9	155	195
結核(5)							
性病(6)	1,312	3	9	1	21	104	1,450
食中毒(7)	767						767
臨床検査(8)	330		21	152	13		516
食品検査(9)	2,940	3,698		13	40	48	6,739
水質検査(10)	82	218		720	536	12	1,568
廃棄物関係検査(11)	5	85					90
公害関係検査(12)	3	72		59		180	314
一般環境(13)	331	566					897
放射能(14)							
温泉(鉱泉)泉質検査(15)							
家庭用品検査(16)		76					76
薬品(17)							
栄養(18)							
その他(19)	56	10				175	241
計(20)	8,436	7,105	2,158	33,191	2,231	1,740	54,861

(3) 項目別検査件数

(3) 項目別検査件数

	件数	保(検査室)	依頼によるもの				自 ら 行 な う も の	検査項目	件数	
			保の 健行政 所政以 機外関	医 療 施 設	学事 校業 及 び所	そ の 他				
細菌・同定検査	腸内系病原菌	39,480	1,260	2,243	2,123	32,246	1,608		1 赤痢菌	36,857
									2 サルモネラ菌	1,338
									3 病原大腸菌	177
									4 腸炎ビブリオ	275
									5 コレラ菌	222
									6 病原ブドウ球菌	17
									7 セレウス菌	1
									8 カンピロバクター	593
									9	
	その他の細菌	65	2		4		3	56	1 レンサ球菌	4
									2 ブドウ球菌	2
									3 百日咳菌	56
									4 腸炎ビブリオ同定	2
									5 サルモネラ同定	1
	血清検査	319						319	1 凝集反応	319
	化学療法剤に対する耐性検査	2			1		1		1 ディスク法	2
小計		39,866	1,262	2,243	2,128	32,246	1,612	375		
ウイルス・リケツチア等検査	分離同定	インフルエンザ	33		33				1 鶏卵培養	33
	血清検査	インフルエンザ	61		61				1 HI	61
		その他ウイルス	1,935	1,265	10			660	1 NT	100
									2 HI	1,825
									3 CF	10
		リケツチアその他	113	82				31	1 HI	113
小計		2,142	1,347	104			691			

		件数	依頼によるもの					自 ら 行 な う の もの	検 査 項 目	件 数	
			保 (健 査 室) 所	保の 健行 所政 以機 外関	医 療 施 設	学事 校業 及 び所	そ の 他				
原虫・寄生虫等	寄 生 虫	3					3		1 蛔 虫	3	
	そ 族 ・ 節 足 動 物	192	1	30			6	155	1 害 虫 同 定	192	
小 計		195	1	30			9	155			
性病	梅 毒	1,437	1,312	3	9	1	9	103	1 現 行 三 法	1,321	
									2 定 量 法	23	
									3 TPHA 定性	93	
									4 TPHA 定量	14	
									5 蛍 光 抗 体 法	1	
	り ん 病	13					12	1		13	
	小 計		1,450	1,312	3	9	1	21	104		
	食 中 毒	病原微生物検査	767	767						1 赤 痢 菌	760
										2 サルモネラ 菌	761
							3 腸炎ビブリオ	761			
							4 病原大腸菌	767			
							5 病原ブドウ球菌	766			
							6 ウエルシュ 菌	766			
							7 カンピロバクター	767			
							8 NAGビブリオ	767			
							9 そ の 他	200			
小 計		767	767								
臨床検査	血 液	血 液 型	2	1				1		A B O 式	1
										R h 式	1

		件 数	依 頼 に よ る も の					自 ら 行 な う の もの	検 査 項 目	件 数
			保 (健 査 室) 所	保 の 健 行 政 所 以 機 外 関	医 療 施 設	学 事 校 業 及 び 所	そ の 他			
臨 床 検 査	血	血液一般検査	326	176			148	2		
									1 赤 血 球	179
									2 白 血 球	179
									3 血 液 像	33
									4 ヘマトクリット	243
									5 血 色 素 量	274
									6 全 血 比 重	2
									7 血 小 板 数	1
	液	生 化 学 検 査	153	153						
									1 血 糖	149
									2 総 コルステロール	149
									3 血漿血清蛋白量	149
									4 中 性 脂 肪	149
									5 βーリポ蛋白	149
									6 トランスアミナーゼ	GOT 90
									7 〃	GPT 90
									8 チ モ ー ル 反 応	1
									9 硫 酸 亜 鉛 反 応	1
	尿		33			21	4	8		
									1 蛋 白	3
									2 糖	3
									3 ウロビリノーゲン	3
									4 沈 査	2
									5 コプロポルフィリン	29
	便		2					2		
									1 潜 血 反 応	2
小 計		516	330		21	152	13			

			件 数	依頼によるもの					自 ら 行 な う の	検 査 項 目	件 数	
				保 (健 査 室) 所	保の 健行 所政 以機 外関	医 療 施 設	学事 校業 及 び所	そ の 他				
食 品 検 査	病原微生物検査		3,741	2,609	1,044			40	48		11,810	
	理化学的検査		2,998	331	2,654		13				6,070	
小 計			6,739	2,940	3,698		13	40	48			
水 質 検 査	飲 用 水	水道水	細菌学的検査	463	41	109		313		1貯 槽 水	926	
		井戸水	理化学的検査	463	41	109		313		1貯 槽 水	6,802	
	下 水	井戸水	細菌学的検査	315				47	268	1井 戸 水	630	
		下水道	理化学的検査	315				47	268	1井 戸 水	4,095	
	小 計		理化学的検査	12						12		132
小 計			1,568	82	218		720	536	12			
廃 棄 物 関 係 検 査	し 尿	細菌学的検査	89	5	84					1浄化槽放流水	168	
												2浄 化 槽 水
		理化学的検査	1		1					1浄 化 槽 水	3	
	小 計			90	5	85						

	件 数	依 頼 に よ る も の					自 ら 行 な う も の	検 査 項 目	件 数
		保 健 室 (検 査 所)	保 健 所 政 機 関 外 関	医 療 施 設	学 事 校 業 及 び 所	そ の 他			
家庭用品検査	76		76						
								1 ホルムアルデヒド	31
								2 塩化水素又は硫酸	3
								3 水酸化ナトリウム又は 水酸化カリウム	1
								4 容 器 試 験	4
								5 塩化ビニール	5
								6 有機水銀化合物	10
								7 トリブチル錫化合物	10
								8 トリフェニル錫化合物	5
								9 ホ ル マ リ ン	13
								10 デ ィ ル ド リ ン	5
								11 T D B P P	3
小 計	76		76						
そ の 他	241	56	10				175		
								1 P H	56
								2 水 分	10
								3 純セッケン分	10
								4 遊離アルカリ	10
								5 中 性 脂 肪	10
								6 アルコール不溶性分	10
								7 水 不 溶 性 分	10
								8 けい光 増白剤の確認	10
								9 残 留 塩 素	24
								10 トリハロメタン	175
小 計	241	56	10				175		
合 計	54,861	8,436	7,105	2,158	33,191	2,231	1,740		

		件 数	依 頼 による も の					自 ら 行 な う も の	検 査 項 目	件 数
			保 (健 査 室) 所	保 の 健 行 所 政 以 機 外 関	医 療 施 設	学 事 校 業 及 び 所	そ の 他			
公 害 関 係 検 査	大	そ の 他	4	3	1					
	煙 道 排 ガ ス								1 温 度	4
									2 水 分	4
									3 流 速	4
									4 ばいじん量	4
									5 いおう酸化物	3
									6 窒素酸化物	3
	河 川	理化学的検査	130		71		59			
									1 河 海 水 底 質	678
									2 産 業 排 水	192
	小 計	そ の 他	180					180		
									1 細菌学的検査	1,080
一 般 環 境	小 計		314	3	72		59		180	
	一般室内環境	一般室内環境	695	255	440					
									1 気 温	144
									2 気 湿	144
									3 気 動	104
									4 じ ん あ い	144
									5 炭 酸 ガ ス	144
									6 照 度	144
									7 落 下 細 菌	714
									8 “ 真 菌	120
									9 そ の 他	144
	浴場水・ プール水	浴場水・ プール水	202	76	126					
									1 細菌学的検査	84
	小 計		897	331	566				2 理化学的検査	124

a) 食品別検査項目内訳

食品種別	試験項目 食品名	検 体 数	保存料			殺菌料 過酸化水素	酸化防止剤 B H A T	漂白剤 亜硫酸塩	発色剤 亜硝酸塩	甘味料 サッカリン	合成着色料	その他の添加物	無脂乳固形分	乳固形分	乳脂肪分
			デヒドロ酢酸	ソルビン酸	安息香酸										
魚介類	生鮮魚類	59													
	貝類	4													
	たこ,かに,いか,えび	2													
	その他(海草,鯨)														
魚介類加工品	塩干物	18		5		5			3	6		3			
	ねり製品	105		100		6			4			10			
	つくだに	22		22								13			
	鯨肉製品	10		2		3			3	6		6			
	その他	81		66		3		1	3	2	3	24			
乳肉製品	肉,卵類,その加工品	244		148						147		12			
	乳製品	64					2	2					26	22	2
	乳類,加工品	1													
	アイスクリーム類,氷菓	19									4			15	5
	牛乳類	55											42		42
農産物	穀類	50													
	穀類,加工品	149	10	11		54									
	野菜,果実,豆類	132							28			1			
	野菜,果実,豆類加工品	121		58					47			31			
	つけもの,煮豆	91		91					9		17	55			
その他の食品	調味料	83		20	49						3	3			
	菓子類	233		66			14	14	27			98			
	清涼飲料水	48			6							4			
	酒,精飲料	13		5			2	2	9						
	その他食品	61		3											
添加物	油脂														
	液状かんすい	58													
	固型かんすい	21													
その他	色素製剤														
	器具,容器,包装	44										2			
	おもちゃ	19										19			
	その他	1,200													
	合計	3,007	10	597	55	71	18	19	133	161	23	285	68	37	49

そ の 他 の 試 験 項 目																			総 項 目 数	
酸 度	比 重	過 酸 化 物 価	揮 発 性 塩 基 窒 素	ヒ ス タ ミ ン	P C B	重 金 属 (Pb Cd 除)	ヒ 素	鉛	カ ド ミ ウ ム	水 銀	農 薬	ホル ム アル デ ヒ ド	フ ェ ノ ール	過 カ リ ウ ム 消 ヒ 酸 量	蛍 光 染 料	蒸 発 残 留 物	合 成 抗 菌 剤	ト コ フ ェ ロ ール	そ の 他	
					22	84	21	21	21	54									15	238
					2	8	2	2	2	2									6	24
				2																2
																				26
			3	1															5	125
																				35
																				20
				1																103
				1	5						25								203	541
2					6														9	71
				1																1
																				24
42	42				4						39									211
									50										12	62
21		21																	65	182
						20			5		422								102	578
3		3																	39	181
																			2	174
1		1				2	2												28	109
41		41																	84	385
3						152	38	38												241
						6	2	2												28
53		50	3	4		16	4	4											10	147
	58					58	58												174	348
						21	21												84	126
					3	15	6					17	17	17	5	17			50	149
						17	9													45
																			2,100	2,100
166	100	116	6	10	42	399	163	67	78	56	486	17	17	17	5	17			2,988	6,276

区	検査項目		細菌数	大腸菌群	ぶどう球菌	サルモネラ菌	腸炎ビブリオ	乳酸菌	真菌	E. coli	耐熱性菌総数	細菌試験	病原大腸菌	ウェルシュ菌	赤痢菌	カンピロバクター	NAGビブリオ	セレウス菌	プロテウス菌	その他	合計	検体件数
	鮮魚	魚																				
魚介類及びその加工品	鮮魚	魚	4	4	4	4	4						4	4	4	4	4				32	4
	生かき		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)			8			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)				(8)	(1)
	貝類		3	3	3	3	3						3	3	3	3	3				24	9
	その他		23	8	508								8	8	8	8	8		4		1,583	508
	魚肉ハム・ソーセージ		12	2	2	2	2						2	2	2	2	2				40	14
	魚肉ねり製品		99	4	4	4	4						4	4	4	4	4			8	238	103
	魚介乾製品		1	1	1	1	1						1	1	1	1	1				8	1
	その他		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)						(1)	(1)	(1)	(1)	(1)				(8)	(1)
	鯨	肉	3	3																	6	3
	鯨肉製品		3	3																	6	3
食肉及び加工品	食肉	肉	203	203	9	208	5						5	5	5	64	5				712	208
	食肉製品		184	184	24	54	2						2	2	2	2	2			8	466	186
	卵																					
	卵加工品		2	2	1	2			1												8	2
乳及び乳製品	乳	乳	47	47	2	2	2						2	2	2	2	2			16	126	49
	乳製品		89	120	1	1	1	31					1	1	1	1	1			8	256	121
	その他		2	2																	4	2
	めん類		133	133	18	1	1						1	1	1	1	1				291	134

穀類の 類及加工 品	豆	95	95	52	1	1						1	1	1	1	1			249	96
	納豆	2	5	2	7	2						2	2	2	2	2			28	7
	その他の	7	7	1	1	1		7				1	1	1	1	1			29	8
	漬物			7	7	7						7	7	7	7	7			56	7
野菜類の 類及加工 品	その他の			2	2	2						2	2	2	2	2			16	2
	冷凍食品	98	43	1	3				58										203	98
	弁当	353	353	363	73	47						29	29	29	29	29			1,334	382
	調理パン	142	142	145	17	3						3	3	3	3	3		16	480	145
調味料	しょうゆ等	1	1	6	6	6						6	6	6	6	6		24	74	7
	菓子類	191	191	141	5	4		2				4	4	4	4	4			554	197
	マーガリン等																			
	清涼飲料水	67	67					2										136	69	
飲料類	粉末清涼飲料																			
	酒精飲料			1	1	1						1	1	1	1	1		8	16	1
	水菓	8	8	1	1	1						1	1	1	1	1		8	32	16
	氷雪																			
その他の食品	レトルト																			
	その他の	69	69			15													191	69
	器具ふきとり	530	530	175	148	118		20				76	76	76	108	76		40	1,973	606
	手指ふきとり	105	105	77	118	39						39	39	39	103	39		48	751	144
ふきとり	ふきん・おしぼり	102	102	102	1	1						1	1	1	1	1			313	103
	その他の	21	21	9	19	1						1	1	1	1	1			94	44
	合計	3,337	3,308	1,377	851	868	31	32	69	38	38	293	293	293	466	293	11	208	11,810	3,748

b) 水質別検査項目内訳

件数	外観・濁度・色度・臭味	P	窒素化合物	過マンガン酸消費量	硬度	陽イオン類	陰イオン類	蒸発残留物	残留塩素	溶存酸素	COD	BOD	浮遊物質	陰イオン活性剤	n・ヘキサン可溶性物質	その他の理化学試験	一般細菌数	大腸菌群	その他の細菌学的試験
飲料水検査	水道水	浄水	(細)貯槽水	926													463	463	
			(理)貯槽水	6,802	1,852	463	1,389	463	463					70		88			
	井戸水	(細)井戸水	630														315	315	
		(理)井戸水	4,095	1,260	315	945	315	315	315										
下係水検査	(細)下水																		
	(理)下水			12				72	12			12				24			
清検槽関係検査	(細)浄化放流水			200													100	100	
	浄化槽水																		
	(理)浄化槽水			8								1	1	1					5
公害	河川水・底質			678	12	12				12	16	16	16			186			
	産業排水			192	7						60	7	4		31	21		2	
	その他の			1,080													180	180	720
環境一般	その他の																		
	浴場水			206			52	52									42	42	
	プール水			252													126	126	
	その他の			175												175			

微生物課

細菌検査係

1. 腸内細菌検査

1) 健康者からの赤痢菌、サルモネラ菌の検出状況

健康者（給食従事者、食品取扱者およびその他一般）の検便から赤痢菌、サルモネラ菌の検出状況は表1に示すとおりである。検査件数は35,648件であり、サルモネラ菌（SS寒天培地上で検出されたもの）は、5件（0.014%）であり、赤痢菌は検出されなかった。

表1. 健康者からの赤痢菌及びサルモネラ菌検出状況

（昭和56年4月～57年3月）

年 月	検査件数	赤 痢 菌	サルモネラ菌
56. 4	2,709		1(0.037)
5	3,428		
6	3,957		
7	3,570		
8	2,647		
9	2,981		1(0.034)
10	3,205		
11	2,553		
12	3,008		
57. 1	2,500		2(0.080)
2	2,682		
3	2,408		1(0.042)
計	35,648	0	5(0.014)

2) 医療機関依頼の下痢症患者からの病原菌検出状況

下痢症患者からの病原菌検出状況は表2に示すとおりである。検査件数1,475件中病原菌が検出されたもの487件（33.0%）であり、そのうち赤痢菌6件（0.4%）、NAGビブリオ2件（0.1%）、腸炎ビブリオ92

件（6.2%）、サルモネラ菌47件（3.2%）、病原大腸菌45件（3.1%）、カンピロバクテ

表2. 下痢症患者からの病原菌検出状況（昭和56年4月～57年3月）

年 月	検査件数	病 原 菌 検出件数	赤痢菌	N A G ビブリオ	腸 炎 ビブリオ	サルモネラ 菌	病原大腸菌	カ シ ピロ バク ター
56. 4	75	16(21.3)*	1(1.3)*		1(1.3)	1(1.3)	2(2.7)*	14(18.7)*
5	105	44(41.9)*				4(3.8)	5(4.8)*	38(36.2)*
6	127	37(29.1)*	2(1.6)			6(4.7)	6(4.7)*	25(19.7)*
7	191	98(51.3)*	1(0.5)		35(18.3)	11(5.8)*	4(2.1)*	50(26.2)*
8	221	87(39.4)*	1(0.4)	1(0.4)*	39(17.6)	8(3.6)*	8(3.6)*	33(14.9)*
9	150	54(36.0)*		1(0.7)*	14(9.3)*	8(5.3)	5(3.3)*	30(20.0)*
10	72	25(34.7)*			1(1.4)	3(4.2)	1(1.4)*	21(29.2)*
11	86	30(34.9)*			1(1.2)	2(2.3)	5(5.8)*	23(26.7)*
12	156	39(25.0)*			1(0.6)	2(1.3)	7(4.5)*	32(20.5)*
57. 1	119	22(18.5)				1(0.8)	2(1.7)	19(16.0)
2	91	16(17.6)	1(1.1)			1(1.1)		14(15.4)
3	82	19(23.2)						19(23.2)
計	1,475	487(33.0)*	6(0.4)	2(0.1)*	92(6.2)*	47(3.2)*	45(3.1)*	318(21.6)*

備考：* は同一患者から2～3菌種の病原菌が検出された事例。

ー 318 件 (21.6 %) に検出され、コレラ菌、エルシニア菌は検出されなかった。また 2 ～ 3 菌種の混合感染によるものが 23 例みられた。

3) 検疫通報者および汚染地域来航者からの病原菌検出状況

検疫通報者および汚染地域来航者からの病原菌検出状況は表 3 に示すとおりである。検査件数 186 件中病原菌が検出されたもの 49 件 (26.3 %) であり、そのうち赤痢菌 1 件 (0.5 %)

表 3. 検疫通報者及び汚染地域来航者からの病原菌検出状況 (昭和 56 年 4 月 ～ 57 年 3 月)

年 月	検査件数	病 原 菌 検出件数	赤痢菌	N A G ビブリオ	腸 ビブリオ	炎 ビブリオ	サルモネラ 菌	病原大腸菌	カンピロ バクター
56. 4	16	5(31.3)					3(18.8)	1(5.6)	1(5.6)
5	15	5(33.3)*			1(6.7)*		2(13.3)	1(6.7)	2(13.3)*
6	17	6(35.3)			1(5.9)			2(11.8)	3(17.6)
7	14	3(21.4)					1(7.1)	2(14.3)	
8	35	9(25.7)	1(2.9)	1(2.9)	4(11.4)			3(8.6)	
9	17	6(35.3)			3(17.6)		1(5.9)	1(5.9)	1(5.9)
10	8	2(25.0)					2(25.0)		
11	7	1(14.3)						1(14.3)	
12	11	4(36.4)			1(9.1)		1(9.1)	1(9.1)	1(9.1)
57. 1	17	4(23.5)					4(23.5)		
2	11	0							
3	18	4(22.2)*			1(5.6)		1(5.6)	2(11.1)*	1(5.6)*
計	186	49(26.3)*	1(0.5)	1(0.5)	11(5.9)*		15(8.1)	14(7.5)*	9(4.8)*

備考：* は同一患者から 2 菌種の病原菌が検出された事例。

NAG ビブリオ 1 件 (0.5 %) , 腸炎ビブリオ 11 件 (5.9 %) , サルモネラ菌 15 件 (8.1 %) , 病原大腸菌 14 件 (7.5 %) , カンピロバクター 9 件 (4.8 %) に検出され、コレラ菌、エルシニア菌は検出されなかった。また 2 菌種の混合感染によるものが 2 例みられた。

2. 食中毒発生状況

昭和 56 年度の市内食中毒発生事例は表 4 に示すとおりである。発生事例は 7 例であり、病因物質別にみると、ぶどう球菌、腸炎ビブリオが各々 2 例、病因物質不明 3 例であり、不明事例のうち、かきによるものが 1 例みられた。

表 4. 市内発生食中毒事例 (昭和 56 年 4 月 ～ 57 年 3 月)

No.	年 月 日	病因物質	摂食者数	患者数	死者数	原因食品	摂食場所
1	56. 6.13	不 明	10	4	0	五目めし丼	事 業 所
2	7.17	ぶどう球菌	不 明	10	0	おにぎり	飲 食 店
3	7.21	腸炎ビブリオ	3	3	0	不 明	一 般 家 庭
4	9. 7	腸炎ビブリオ	61	7	0	不 明	寮
5	11.15	不 明	29	19	0	会食料理	飲 食 店
6	12.27	不 明	8	4	0	かき(推)	一 般 家 庭
7	57. 3.24	ぶどう球菌	32	11	0	弁 当	現 場

3. 感染症サーベランス事業

百日咳の抗体価分布は表5に示すとおりである。抗体価陰性率についてみると、0～3才では、ワクチン株68.9%，新分離株23.0%，4才以上では、ワクチン株13.5%，新分離株3.4%であった。

表5. 百日咳の抗体価分布（昭和56年4月～57年3月）

年 令	検査件数	抗 原	抗 体 価									
			<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	≤
0～3	196	ワクチン株	135	31	15	8	4	2				1
		新分離株	45	51	47	22	18	7	2	2	2	
4～6	33	ワクチン株	7	7	5	4	4	2	2	2		
		新分離株	2	4	7	6	8	2	1	3		
7～10	26	ワクチン株	1	1	5	2	9	1		5	2	
		新分離株		3	5	7	3	1	1	2	4	
計	255											

また菌分離状況は表6に示すとおり、検査件数52件中4件が陽性であった。

表6. 百日咳菌の分離状況
（昭和56年4月～57年3月）

4. 河川水等の定点観測

河川水等から分離した病原菌検出状況は表7に示すとおりである。

検査件数	陽性数
52	4

毎月15検体、延べ180検体について検査を行い、赤痢

菌、コレラ菌、腸チフス、パラチフス菌は検出されなかった。NAGビブリオ72件（40.0%）、腸炎ビブリオ22件（12.2%）、腸チフス、パラチフス以外のサルモネラ143件（79.4%）に検出された。

表7. 河川水等から分離した病原菌検出状況（昭和56年4月～57年3月）

検査項目		年 月 56									57				計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
赤	痢 菌													0	
コ	レ ラ 菌													0	
N A G	ビブリオ	9	10	3	12	13	11	6	5	1			2	72(40.0)	
腸 炎	ビブリオ	1	3	2	3	3	2	2	2	1	1		2	22(12.2)	
サ ル	腸 チ フ ス													0	
モ ネ	パ ラ チ フ ス													0	
ラ	その他サルモネラ	12	14	10	12	14	14	13	11	12	9	11	11	143(79.4)	
検 査 件 数		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	

5. 食品細菌検査

食品細菌検査件数は表8に示すとおりである。検査件数3,148件であり、そのうち違反食品（川崎市の食品等の衛生指導基準による）が多く検出された食品は、鮮魚介類（さしみ、すし種、貝類等）、めん類、弁当類、そう菜、菓子類、ふきとり（器具、手指）であった。また病原菌検出では、鮮魚介類（腸炎ビブリオ）、食肉（サルモネラ菌、カンピロバクター）等が多く検出された。

表8. 食品細菌検査件数（昭和56年4月～57年3月）

品	目	検体数	違反件数				
			細菌数	大腸菌群	ぶどう球菌	サルモネラ菌	腸炎ビブリオ E.coli 真菌 セレウス菌 カンピロバクター
魚介類及びその加工品	鮮魚介類	508	235(46.3)	221(43.5)			55(10.8)
	魚肉ハム・魚肉ねり製品	111		5(4.5)			
鯨肉及びその加工品	鯨肉・鯨肉製品	6		2(33.3)			
	食肉	203				32(15.8)	12(5.9)
食肉及びその加工品	食肉製品	134		2(1.5)			
	卵及びその加工品	2					
乳及びその加工品	乳	42					
	・乳製品	114					
乳及びその加工品	乳等を主原料とする食品						
	その他の	13	1(7.7)	4(30.8)			
穀類・豆類及びその加工品	めん類	133	31(23.3)	3(2.3)			
	豆腐	95	2(2.1)	6(6.3)			
冷凍食品	その他の	12					
	冷凍食品	98			1(1.0)		
弁当・そう菜	弁当類	495	147(29.7)	211(42.6)	2(0.4)		1(0.2)
	そう菜	312	50(19.2)	75(24.0)			
菓子類	菓子類	193	29(15.0)	29(15.0)			1(0.5)
飲料類	清涼飲料水	66					
	酒類						
その他の食品	その他の	6	1(16.7)				
	水	8					
その他の食品	レトルト食品	38					
	その他の	74	11(14.9)	10(13.5)			1(1.4)
ふきとり手	器具	357		84(23.5)		1(1.3)	1(0.3)
	指	105		46(43.8)	1(1.0)		1(1.0)
その他	その他の	23					1(4.3)
	計	3,148					

臨床検査係

業務は、血清学（梅毒、HB等）的、血液学的、生化学的、寄生虫学的検査業務及び突然変異原性試験及び調査研究業務である。

1. 梅毒血清学的検査

検査件数は1,438件で55年度の1,474件と変化はみられない。第1表に示したように方法別にみると、TPHAの定性法、定量法が増加している。陽性率でもSTS3法が低下しているのにTPHA法が上昇している。STS3法陽性者についてTPHA法の検査依頼が増加したためである。

2. 成人衛生（生化学・血液）検査

保健所（7ヶ所）で行う成人衛生及び健康増進学級からの依頼が主である。第2表に示すとおり、 β -リポ蛋白、中性脂肪に高値異常者が多い傾向は昨年と同様である。血液も女性に低異常者の多い傾向も同様である。血糖（11.6%）、血清蛋白（14.7%）は昨年より高異常者率が増加している。

3. 血液学及び一般検査

血液検査の対象は、有機溶剤、重金属、放射線従事者の特殊健診及び貧血の集団検診等である。第3表に示すように赤血球、血色素ではとくに低異常者が女性に多く、白血球、ヘマトクリットでもその傾向がある。赤、白血球とも高異常者は男性に多かった。

尿検査中コプロポルフィリン検査は、鉛を扱う職業の特殊健診の依頼検査である。（+）18.2%（±）9.1%と高い傾向は昨年と同様である。

4. HB肝炎定期検診

昭和54年度から保健医療職場の本市職員について、年1回の定期検診の依頼があり、HBs抗原、抗体の測定を行っている。抗原陽性率では54年2.5%、55年2.0%、56年1.2%で新しい陽転者の出現はみられない。抗体陽性者54年15.6%、55年16.1%、56年16.9%であり同様に新しい陽転者はみられない。

5. 突然変異原性試験

56年度からは、突然変異原性試験の技術を導入し、若干の備品を備えて本市企画調整局からの依頼で合成洗剤の突然変異原性試験の、エームス（Ames）テストを実施している。

6. 調査研究

多岐にわたっている本係の業務にかかわる調査研究を1テーマにしぼることは常に困難なことである。主テーマとして梅毒血清反応緒方法（補体結合反応）のマイクロタイター法の検討を実施し、保健所その他の市施設と共同でヘモグロビン検査の精度管理、合成洗剤関係の調査研究を実施した。

1) 梅毒緒方法のマイクロタイター法について

マイクロタイター法としては「本間-CFキット」（本間研究所）を用い、梅毒検査指針の緒方法と比較検討し、強陽性、弱陽性、陰性部分で高い一致率をみた。この結果は、川崎市保健衛生研究発表会及び第28回神奈川県公衆衛生学会へ報告した。

2) ヘモグロビン検査精度管理

市内7保健所，社会復帰医療センター，ガン検診センター，当所10ヶ所で市販コントロール血液，正常，低異常，高異常の三濃度コントロールを用いて1日1回，30回 酸素ヘモグロビン法（1% Na_2CO_3 ）で実施した。

その結果は，川崎市保健衛生研究発表会及び第28回神奈川県公衆衛生学会へ報告した。

3) 合成洗剤

市内河川の合成洗剤汚染調査の2年目を継続して行い，陰イオン活性物質（MBAS）の汚濁濃度と，非イオン系ポリオキシエチレン活性剤（POE）汚濁濃度は10：1となり京都市，山梨，神奈川県衛研の報告とほぼ同じ傾向を示し，また，MBASと蛍光増白剤（B・A）の月別汚濁濃度の増減はよく一致し，55年11月以降，総リン酸は有意に減少する傾向を示した。この結果は第40回日本公衆衛生学会特別講演，第5回合成洗剤研究会に報告した。

第1表 梅毒血清学的検査成績（S56.4～57.3）

		定性			定量		TPHA		FAT-ABS
		緒 方 法	凝 集 法	ガ ラ ス 板 法	緒 方 法	凝 進 法	定 性 法	定 量 法	
55年	総数	1,419	1,419	1,419	10	10	36	0	0
(1,474)	陽性	51(3.6)	39(2.8)	36(2.5)	—	—	1(2.8)	—	—
56年	総数	1,320	1,320	1,320	11	9	108	13	1
(1,438)	陽性	27(2.1)	27(2.1)	24(1.8)	—	—	20(18.5)	—	—

第2表 成人衛生生化学血液検査成績

検査項目	総 数			異 常 件 数			
				低 値		高 値	
	検査件数	男	女	男	女	男	女
血 清 総 蛋 白	143					21(14.7%)	
血 糖	146					17(11.6%)	
総コレステロール	143			2(1.4%)		7(4.9%)	
β -リポ蛋白	143					34(23.8%)	
中 性 脂 肪	143			14(9.8%)		29(20.3%)	
尿 素 窒 素	143					1(0.7%)	
GOT	74					1(1.4%)	
GPT	74					1(1.4%)	
ZTT	1						
TTT	1					1(100%)	
血 色 素	144	25	119	2(8.0%)	14(11.8%)		2(1.7%)
ヘマトクリット	144	25	119	1(4.0%)	18(12.5%)		2(1.7%)
合 計	1,299			51(3.9%)		116(8.9%)	

(S56.4~57.3)

第3表 血液及びその他の検査成績（S56.4～57.3）

（S56.4～57.3）

検査項目	性別	正常値	総数		異常値件数			
					低異常(%)		高異常(%)	
赤血球数 $\times 10^4/\text{mm}^3$	♂	410～530	73	186	2(2.7)	7(3.8)	6(8.2)	11(5.9)
	♀	380～480	113		5(4.4)		5(4.4)	
白血球数 $/\text{mm}^3$	♂	5,000～8,500	75	187	9(12.0)	26(13.9)	6(8.0)	10(5.4)
	♀		112		17(15.2)		4(3.6)	
血色素量 g/dl	♂	14～18	73	186	2(2.7)	20(10.6)	0	1(0.5)
	♀	12～16	113		18(15.9)		1(0.9)	
ヘマトクリット値 %	♂	39～52	56	169	7(12.5)	23(13.6)	2(3.6)	2(1.2)
	♀	35～48	113		16(14.2)		0	
全血比重			2				0	
血液像			33				0	
血液型		ABO型	1					
		Rh型	1					
血漿板数			1				0	
尿定性		一般	5				0	
		コプロポルフィリン	33				(+) 6(18.2), (±) 3(9.1)	
寄生虫			3				0	
尿潜血反応			2				0	
計			809					

ウイルス検査係

1. インフルエンザ検査

昭和56年12月～昭和57年2月までの間に集団かぜで学級閉鎖を実施した学校および学級閉鎖数はそれぞれ29校、141学級で、昨年の9校、13学級に比べてかなり多かった。

ウイルス検査には1集団約5名のインフルエンザ様患者を選び、6集団30名についてウイルス分離と血清学的検査を行った。その結果、30名中5名の学童からB型のインフルエンザウイルスが分離された。また血清学的には21名のB型感染が確認され、当市における本年度のインフルエンザはB型が主流であった。

2. 風疹の抗体検査

昭和56年度の月別検査件数は表1に示すとおりである。

本年度の風疹検査は風疹流行の影響を受け、昨年度(81件)より大幅な増加がみられた。

3. 感染症サーベイランス事業

10才以下を対象に麻疹、風疹ならびにおたふくかぜの抗体調査を行った。

それぞれのウイルスに対する検査件数と抗体保有率は表2に示すとおりである。

表1

年 月	検査件数	年 月	検査件数
56. 4	7	56.10	43
5	60	11	26
6	638	12	24
7	194	57. 1	34
8	103	2	82
9	68	3	68
合 計		1,347	

表2

検査項目 年齢(%)	麻 疹		風 疹		おたふくかぜ	
	検査件数	HI抗体保有率(%)	検査件数	HI抗体保有率(%)	検査件数	中和抗体保有率(%)
<1	78	15.4	76	38.2	16	18.8
1~2	83	38.6	82	11.0	27	14.8
3~4	28	96.4	28	17.9	13	30.8
5~6	27	88.9	28	32.1	14	71.4
7~8	24	95.8	24	16.7	18	88.9
9~10	21	85.7	21	42.9	10	80.0
計	261		259		98	

4. 衛生動物検査

1) 室内塵中の有害動物分離同定試験(6件)

一般依頼として持ち込まれた。検査の結果、いずれの検体からも人体に有害な動物は検出されなかった。

2) 食品混入物の検査(1件)

保健所から、カレーライスへの混入物として同定が依頼された。検査の結果オオアメイロコンボウコマユバチと同定された。

3) 輸入果物の検査(40件)

市民局消費生活課から輸入果物の害虫検査が依頼された。昆虫の卵、幼虫、サナギおよび成虫の分離を行ったがいずれも不検出であった。

理 化 学 課

食 品 検 査 係

1. 食品添加物試験

食品衛生課および7保健所から搬入された収去食品1704検体について食品添加物の検査を実施した。添加物使用基準不適のものは3検体であり、その内訳は過量に使用されたベーコン（亜硝酸塩 0.087 g/kg）、さつまいも加工品（亜硫酸塩 0.046 g/kg）および亜硫酸塩不正使用のもやし（0.027 g/kg）であった。

2. 製品検査

液体かんすい158検体、粉末かんすい21検体の計179検体について実施したがいずれも規格に適合した。

3. 鶏肉の抗菌剤

生肉46検体についてクロピドールの検査を実施したが検出されたものは1検体で0.3 ppmであった。

4. 市販食肉の添加物検査

市販食肉63検体について色調を鮮かにする目的で使用する添加物（アスコルビン酸、ニコチン酸、ニコチン酸アミド）の検査を実施した。その結果は表1に示すとおりである。

表1. 食肉中の添加物検査結果

加工形態	検体数	アスコルビン酸	ニコチン酸	ニコチン酸アミド ($\mu\text{g/g}$)	
		検出数	検出数	検出数	平均値
牛肉(ひき肉)	27	0	0	6	609
〃(スライス肉)	37	0	0	3	1378
〃(こま肉)	6	0	0	0	—

5. マイコトキシン

カシューナッツ、コシヨー他計11検体についてアフラトキシン B₁、B₂、G₁、G₂の検査を実施したが、いずれも検出されなかった。

6. プロピレングリコール

生めん、ぎょうぎの皮他計57検体についてプロピレングリコールの検査を実施した。その結果は表2に示すとおりである。

表2 プロピレングリコールの検査結果

品 品	検体数	検出数	検 出 範 囲 g/kg				
			～5.0	5.1～10.0	10.1～15.0	15.1～20.0	20.1～
生 め ん	26	15	4	4	5		2
わんたんの皮	3	2			1		1
ぎょうざの皮	4	1			1		
春 巻 の 皮	2	1		1			
日 本 そ ば	2	1			1		
スパゲッティ	3	3					
生 う ど ん	6	0					
カ ス テ ラ	1	0					
シューマイの皮	1	1		1			
魚肉ねり製品	8	0					
よ う か ん	1	0					

6. カドミウム

市内産玄米50検体についてカドミウムの検査を実施した結果、0.01ppm～0.18ppmの範囲で検出され、平均値は0.05ppmであった。

7. 輸入柑橘類のエチレンジブロマイド

柑橘類39検体についてエチレンジブロマイドの検査を実施した。その結果は表3に示すとおりである。

表3 エチレンジブロマイドの検査結果

種 類	検体数	検出数	エチレンジブロマイド(ppm)
オ レ ン ジ	10	0	—
レ モ ン	10	1	0.22
グレープフルーツ	10	1	0.01
パ パ イ ヤ	4	3	0.01～0.05
マ ン ゴ	2	0	—
キ ュ ウ イ	3	0	—

水 質 検 査 係

1. 飲料水試験

昭和56年度実施の一般飲料水検査件数は790件でその内容は表のとおりである。

表 一般飲料水検査結果

種 別		井戸水	貯槽水	船舶水	簡易専用水道水
検 査 件 数		316	85	358	31
不 適 件 数		211	11	123	0
不 適 率 (%)		66.8	12.9	34.4	0
不適項目 (件数)	外 観	28	0	3	0
	臭 味	2	1	0	0
	p H	0	6	40	0
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	20	0	0	0
	塩 素 イ オ ン	1	0	0	0
	過マンガン酸カリウム消費量	8	0	1	0
	鉄	58	5	22	0
	総 硬 度	2	0	0	0
	蒸 発 残 留 物	4	0	0	0
	一 般 細 菌	173	6	97	0
	大 腸 菌 群	110	0	14	0

検査件数を前年度比でみると、井戸水は約2.5倍増加、船舶水はほぼ前年度並み、貯槽水も同様では前年度並み、簡専水は約1/3に減少し、総件数では約2割程度増加をみている。不適率は、井戸水を除いて全て減少し、不適項目順位はほぼ前年度と同じであった。井戸水の件数増加は、一斉調査のためである。

2. 浮島埋立地周辺海水調査

浮島埋立地周辺の海水水質調査を4地点について、年3回実施した。検査25項目のうち、検出された項目についての平均値と範囲を表に示した。

表 海水水質調査結果

項 目	平均	範 囲	項 目	平均	範 囲
pH	8.0	7.6 ~ 8.7	リン酸態リン mg/l	2.9	0.02 ~ 13.20
浮遊物質 mg/l	5.7	1.4 ~ 13.6	大腸菌群 MPN/100ml	342	4 ~ 1300
COD mg/l	3.3	1.0 ~ 7.4	溶解性鉄 mg/l	0.02	0 ~ 0.13
BOD mg/l	3.9	1.1 ~ 9.9	溶解性マンガン mg/l	0.01	0 ~ 0.03
溶存酸素量 mg/l	7.7	5.9 ~ 9.4	亜鉛 mg/l	0.01	0 ~ 0.02
総窒素 mg/l	1.7	0.69 ~ 2.95	フッ素 mg/l	1.24	1.00 ~ 1.60

3. 当施設最終下水水質測定と有害物質含有廃液処理について

下水道法に基く衛研排水検査を毎月1回実施しているが、表1にその結果を示した。

表1. 最終下水水質測定結果

検出項目	pH	BOD (mg/ℓ)	亜鉛 (mg/ℓ)	溶解性鉄 (mg/ℓ)
平均値	7.3	45.3	0.22	0.23
範囲	6.9～8.3	19.9～191	0.03～0.35	0.05～0.41

また、表2の有害物質含有試験検査廃液処理量は、重金属270ℓ、水銀系50ℓ、クロム系35ℓシアン系0ℓであった。

表2. 有害物質含有廃液処理量

年 度	50	51	52	53	54	55	56
処 理 量 (ℓ)	477	518	430	380	321	475	355

環境検査係

1. 建築物の環境検査

ビル衛生管理法にもとづく公共施設3か所を測定したところ、浮遊粉じん量は72測定点のうち40地点で管理基準値以上であった。また公共施設6か所の煙道中ばいじん量、硫黄酸化物および窒素酸化物を測定したが、いずれも規制値以下であった。

2. 家庭用品検査

- 1) 衣服類43検体のホルムアルデヒドの試験結果は、すべて適合であった。
- 2) 住宅用洗剤18検体の塩化水素、硫酸、水酸化ナトリウムおよび容器試験の結果は、すべて適合であった。
- 3) 靴墨、ワックス、下着10検体について有機水銀化合物の試験をした結果、すべて適合であった。
- 4) 下着、塗料10検体についてトリブチル錫化合物の試験をした結果、すべて適合であった。
- 5) 靴墨、塗料、ワックス5検体についてトリフェニル錫化合物の試験をした結果、すべて適合であった。
- 6) 毛布、セーター、毛糸等10検体についてディルドリンの試験をした結果、すべて適合であった。
- 7) 毛布、パジャマ、カーテン6検体についてTDBPPの試験をした結果、すべて適合であった。
- 8) 家庭用品の規制対象外である洗たく用粉石けん10検体についてJIS規格試験(水分、純石けん分、遊離アルカリ等7項目)を実施した結果、すべて適合であった。

3. PCB検査

食品および容器包装等36検体についてPCBを分析した。その結果は表1に示すとおりである。

このうち15検体(41.7%)にPCBが検出されたが、暫定規制値を越えたものはなかった。また魚介類の最高は、はぜの0.6 ppmであった。

表 1 P C B の 分 析 結 果

単位：ppm

検 体 名		検 体 数	検出件数	検 出 範 囲	平 均 値	暫 定 規 制 値
魚 介 類	内海内湾	13	10	n.d ~ 0.6	0.108	3
	遠洋沖合	5	4	n.d ~ 0.05	0.030	0.5
牛 乳		4	0	0	0	0.5
乳 製 品		3	0	0	0	1
育 児 用 粉 乳		3	0	0	0	0.2
鶏 卵		2	0	0	0	0.2
容 器 包 装		3	0	0	0	5
肉 類		3	1	n.d ~ 0.01	0.003	0.5

4. 総水銀検査

魚介類54検体のうち暫定的規制値のあるもの53検体について分析した結果、すべて規制値以下(0.002~0.12, 平均値0.030 ppm)であった。また規制値のないふなは、0.03 ppmであった。

5. 魚介類および野菜果実類の重金属検査

魚介類25検体, 野菜果実5検体の分析結果は表2に示すとおりである。

表2 魚介類および野菜果実の重金属の分析結果

単位：ppm

	検体数	銅	鉛	カドミウム	マンガン	クロム	亜鉛	ヒ素
魚 類	23	0.11 ~1.60	n.d ~0.06	n.d ~0.04	0.14 ~5.77	n.d ~0.23	2.63 ~14.64	0.24 ~9.65
貝 類	2	1.43 ~1.57	0.03 ~0.06	0.05	2.95 ~5.50	0.17	15.84 ~17.04	0.89 ~1.24
野菜類	5	0.68 ~1.07	—	0.01	0.90 ~1.72	0.01 以下	1.38 ~1.89	—

6. 残留農薬検査

本市内産の日本なし, キャベツ, きゅうり等10種32検体について分析した。その結果、すべて基準値以内であった。また市販牛乳5検体および学校給食用に搬入された果実3検体, 牛乳4検体については、すべて基準値以内であった。

7. n-パラフィン系炭化水素

多摩川および川崎港付近で採取した魚類5検体、貝類2検体について分析した。その結果は表3に示すとおりである。

表3 魚介類のn-パラフィン系炭化水素の分析結果

		単位：ppm		
	検体数	C ₁₅ H ₃₂	C ₁₇ H ₃₆	C ₁₉ H ₄₀
魚 類	5	n.d	n.d～0.2	n.d
貝 類	2	n.d	n.d	n.d

8. おしぼり、おむつの検査

おしぼり、おむつ55検体についてPH55件、残留塩素24件を実施した。PH値は7.1～10.1で平均値は7.6であった。また残留塩素は0.02～30.0で平均値は2.9であった。

9. 清涼飲料水の規格試験

清涼飲料水44検体について試験をした結果、すべて適合であった。

3. 調 査 研 究

(1) 調査研究報告

紫外線吸光度（UV計）とCOD（JIS法）の相関について

理 化 学 課

湯 川 茂 夫

1. はじめに

従来、水中の有機物質の指標として、COD、BODが用いられているが、最近、測定方法が簡便な自動測定法が、多方面に利用されている。今回この自動測定法のうち、有機物質の紫外線吸収特性を利用した紫外線吸光度自動計測器（以下UV計と略す）を用いて排水中の有機物質量を測定した。

本報では、廃油処理場放流水のCODとして、UV計が利用出来るかどうか各々の測定データについて統計的に検討したので報告する。

2. 試験方法

- (1) COD：工場排水試験方法 JIS-K 0102-13, (1974), 廃油処理場放流水は、約15, 400 mg/ℓと高い塩素イオン濃度を示していたので、硫酸銀を添加レスターラーで、約20分間攪拌、反応させた後にCODを求めた。
- (2) 塩素イオン（Cl⁻）：工場排水試験方法 JIS-K 0102-25 (1974)
- (3) UV計吸光度：波長254 nmを使用した。

3. 測定方法

廃油処理場放流水を3回採水し、UV計吸光度とCOD値を同時に測定した。

（採水）第1回：昭和55年8月21, 25, 26, 27日に21検体

第2回：昭和56年3月29日, 18:05~20:45まで5分間隔で32検体

第3回：昭和56年6月4, 9, 11日に21検体

4. 結果および考察

第1回目の測定結果について図1にCODとUV計吸光度の散布図を示した。すなわち、両者の相関係数は、 $r = 0.604$ であり、回帰直線は、 $Y = 39.0X + 4.4$ の直線を示した。

相関係数の検定を行なった所危険率5%で、 $r(19, 0.05) = 0.433$ 、危険率1%で、 $r(19, 0.01) = 0.549$ でも有意な相関があった。また、UV計吸光度とCODの変動係数は、20.9 23.6%であった。

回帰分析を行なった所、表1の様な分散分析表が得られた。分散比の検定を行なった結果、危険率1%でUV計吸光度とCODが「直線的であると認められる」という結果が求められた。そ

して、95%の信頼区間で回帰式 $Y = 39.0X + 4.4$ を検討してみると図1に示した点線の区間に入っているUV計吸光度は、有効であり、区間に入らない値は、再検討する必要がある。さらに、 $\bar{x}$ における相対誤差は、41.4%であった。

第2回目の測定値を図2に示した。相関係数を求めると $r = 0.03$ で、相関がなかった。

また、変動係数は、UV計吸光度が47.5%、CODが85.2%と高い変動値を示していた。この事は、図2からわかるようにCODが、低値である場合にUV計吸光度が高い値を示していた。

このような状況でのUV計の管理を充分に行なう必要がある。

この点に留意し第3回目を実施した。図3に示す様に相関係数は、 $r = 0.544$ であった。危険率5% $r(19, 0.05) = 0.433$ では、有意な相関があり、危険率1%では、相関がなかった。

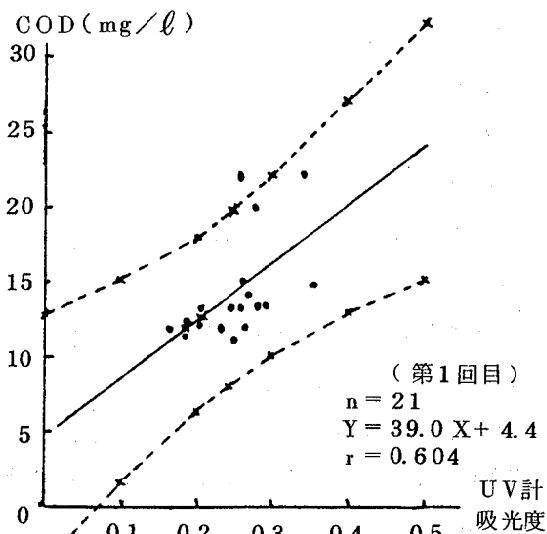


図1. CODとUV計吸光度の散布図

表1. 分散分析表

変動因	平方和S	自由度φ	分散V	分散比F ₀
回帰による	79.7	1	79.7	10.886
回帰からの	139.1	19	7.321	—
全体	218.8	20	—	—

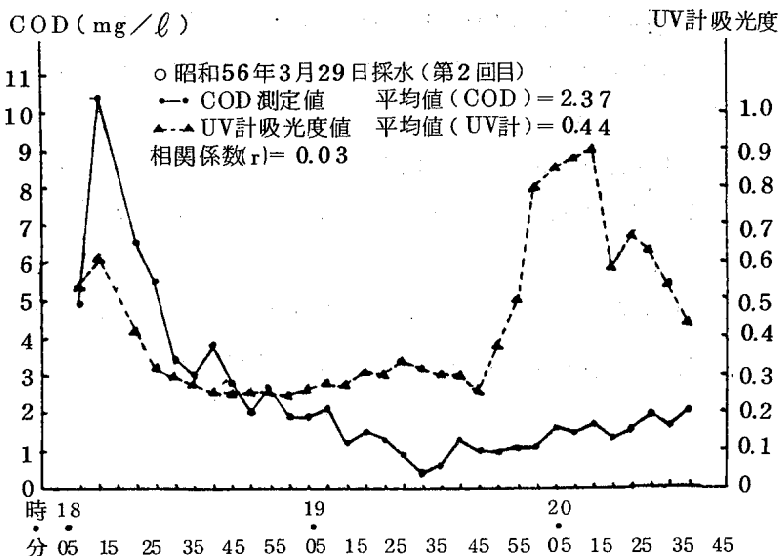


図2. CODとUV計吸光度の時系列データ

回帰直線を表わすと $Y = 5.8X + 2.2$ であった。

表2に分散分析表を示し、分散比の検定を行なった所、危険率5%で直線的であることが認められた。

変動係数について見るとUV計吸光度は、7.3%とバラツキの少ない値を示し、CODは、77.0%とバラツキていることがわかった。

回帰式に対する確率95%の信頼区間は、図3の点線に示す様な区間になった。さらに、 $\bar{x}$ における相対誤差は、29.5%であった。

この事から、散布図を利用し危険率5%では、UV計吸光度

からCOD値の換算が可能であり、想定した確立を超えて多くの点が信頼限界線からとび出していたり、ある傾向をもって並ぶようであれば、水質に何か変わったことがあったか、計測上の技術的問題が発した可能性があると考えて、その原因を究明する必要がある。また、UV計吸光度の変化が長期間かわらない場合は、再度CODとの相関を検討する必要がある。

5. ま と め

UV計を利用して、廃油処理場放流水のCOD値への換算が可能であった。但し、COD値が低い場合には、UV計の管理を充分に行なう必要がある。

6. 文 献

- (1) 斉藤孝夫：水質総量規制の測定実務ハンドブック；環境公害新聞社（1981）
- (2) 神奈川県用廃水技術研究会：水質総量規制制度とその対策；（1979）

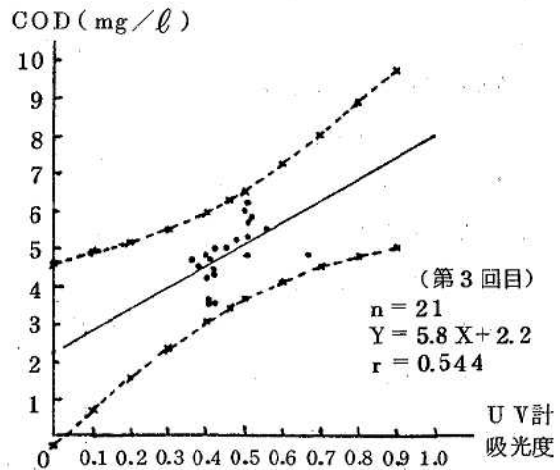


図3. CODとUV計吸光度の散布図

表2. 分散分析表

変動因	平方和S	自由度φ	分散V	分散比F ₀
回帰による	3.51	1	3.51	7.982
回帰からの	8.36	19	0.44	—
全 体	11.87	20	—	—

(2) 論文発表

Recovery of Cell-Free Varicella Virus from Vero Cells

M. SAITO, C. HARUYAMA, H. OHBA, S. MAKINO, and M. MATUMOTO

Archives of Virology 68, 59-63 (1981)

(3) 学会発表

第55回 日本感染症学会

昭和56年4月9～10日

森ノ宮ピロティホール（大阪市）

川崎市におけるCampylobacter 腸炎について

小川正之, 大久保吉雄, 岡田京子, 山下雅嗣, 中村武雄, 長田信

川崎市における輸入感染性腸炎および下痢症患者からの細菌学的検索（1979～1980年）

大久保吉雄, 岡田京子, 小川正之, 黒岩潔, 中村武雄, 長田信

第56年度 川崎市公衆衛生研究発表会

昭和56年6月30日

中原市民館

市内河川の合成洗剤成分の汚染について（第2報）

小林勇, 倉塚太刀夫, 加佐見洋子, 飯塚郁夫,

梅毒血清反応検査の検討について

加佐見洋子, 小林勇, 倉塚太刀夫, 飯塚郁夫

Mycotoxinの調査研究

（温室内の真菌の推移についてⅠ）

頭本藤雄, 小野勝美

高速液体クロマトグラフによる食内中のビタミン類の分析について

森悦男, 田中幸生, 山本順昭, 小川時彦, 小野勝美

塩素処理によるクロロホルム生成について

石塚美恵子, 入口政信, 吉川サナエ, 湯川茂夫, 佐野仁

食品中の石油系炭火水素について（第2報）

竹沢英二, 山田高志, 鈴木明子, 原田忠彦

第29回 日本ウイルス学会総会

昭和56年10月21～23日
調布市公民館

ヒトロタウイルスの抗原性について

實方剛, 小田和正, 大場初義

おたふくかぜ生ワクチン接種後耳下腺腫脹の検討

分離ウイルスのブラック・サイズマーカーについて

佐々木繁子, 井上和子, 下田和伸, 中川正治, 中村直吉, 斉藤充司, 牧野慧, 岡秀,
新納憲司, 中沢進一, 堀内清

第40回 日本公衆衛生学会

昭和56年10月28日
愛知県歯科医師会館

川崎港内底質中のB(a)Pと重金属

吉川サナエ, 佐野仁, 頭本藤雄

国立公害研究所 森田昌敏

合成洗剤成分における川崎市内河川の汚濁調査(第2報)

小林 勇

第27回 神奈川県公衆衛生学会

昭和56年11月25日
神奈川県保健教育センター

川崎市におけるCampylobacter 腸炎について

岡田京子, 黒岩潔, 大久保吉雄, 小川正之, 中村武雄

川崎市内河川の合成洗剤汚濁調査について(第2報)

小林勇, 倉塚太刀夫, 加佐見洋子, 飯塚郁夫

川崎市における輸入感染性腸炎及び下痢症患者からの細菌学的検索(1979～1980年)

山下雅嗣, 岡田京子, 黒岩潔, 小川正之, 大久保吉雄, 中村武雄

魚介類におけるNAGビブリオの汚染について

小川正之, 岡田京子, 山下雅嗣, 大久保吉雄, 中村武雄

川崎市中央卸売市場食品衛生検査所 萩原俊司

4. 職員名簿

(昭和57年4月1日現在)

衛生研究所長 技術吏員 中 村 武 雄
 事務長 事務吏員 市 川 堯 春
 事務室
 主任 事務吏員 金 子 文 雄
 事務吏員 松 本 正 昭
 事務吏員 高 杉 悦 子
 事務吏員 吉 田 健 児
 技能吏員 古 手 進
 業務吏員 森 田 晴 子
 業務員 村 松 翠

微生物課長 技術吏員 頭 本 藤 雄
 細菌検査係
 係長 技術吏員 大久保 吉 雄
 技術吏員 大 畠 武 夫
 技術吏員 岡 田 京 子
 技術吏員 小 川 正 之
 技術吏員 山 下 雅 嗣
 技術吏員 黒 岩 潔

臨床検査係
 係長 技術吏員 小 林 勇
 技術吏員 倉 塚 太刀夫
 技術吏員 加佐見 洋 子
 技術吏員 飯 塚 郁 夫

ウイルス検査係

係長 技術吏員 斉 藤 充 司
 技術吏員 春 山 長 治
 技術吏員 佐 藤 英 毅
 技術吏員 大 場 初 義

理化学課長 技術吏員 原 田 忠 彦

食品検査係

係長 技術吏員 小 野 勝 美
 技術吏員 小 川 時 彦
 技術吏員 山 本 順 昭
 技術吏員 田 中 幸 生
 技術員 渡 辺 令 子

水質検査係

係長 技術吏員 佐 野 仁
 技術吏員 湯 川 茂 夫
 技術吏員 吉 川 サナエ
 技術吏員 石 塚 美恵子
 技術吏員 入 口 政 信

環境検査係

係長 技術吏員 森 悦 男
 技術吏員 鈴 木 明 子
 技術吏員 竹 沢 英 二
 技術吏員 山 田 高 志

5. 人 事 記 録

年月日	職 名	氏 名	異 動 事 項
57.2.1	技術吏員	長 田 信	退 職
〃	〃	中 村 武 雄	微生物課長から所長へ昇格
〃	〃	頭 本 藤 雄	理化学課長から微生物課長へ異動
〃	〃	原 田 忠 彦	理化学課環境検査係長から理化学課長へ昇格
〃	〃	森 悦 男	理化学課食品検査係から環境検査係長へ昇格
57.4.1	技 術 員	渡 辺 令 子	理化学課食品検査係へ新規採用

発行年月日	昭和57年12月20日
発行所	川崎市衛生研究所
所在地	川崎市川崎区大島5-13-10
電話	044(244)4985~6